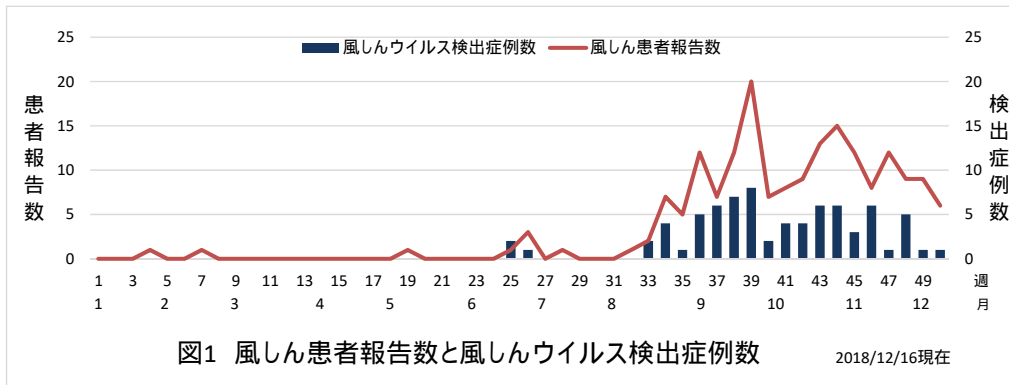


風しんウイルスからみた風しんの流行状況

2018年夏以降、首都圏を中心に風しんの患者報告数が急増しています。

図1に、2018年の埼玉県における風しん患者報告数と、埼玉県衛生研究所での風しんウイルス検出状況を示しました。当所で風しん検査は261症例に実施し、風しんウイルスは75症例から検出されました。

風しんは、2012～2013年に大流行した後、2014～2017年は流行が抑えられていましたが、2018年8月から患者報告数が増加しました。患者報告数の増加に一致して、8月から風しんウイルスの検出症例数も増加しました。



風しんウイルスは、現在13種類の遺伝子型に分類されています。表1に2012年から2018年に検出された風しんウイルスの遺伝子型を示しました。遺伝子型別ができた風しんウイルスは、2012～2013年の流行時には90%以上が2Bでしたが、2018年の流行ではすべて1Eとなっています。

2018年の風しんウイルス検出症例の性別・年代は表2のとおりです。全国の状況と同様、30歳代～40歳代の男性を中心に患者が発生しています。

表1 検出された風しんウイルスの遺伝子型(症例数)

年	2B	1E	型別未確定	計
2012	11	1	0	12
2013	13	1	5	19
2014	0	0	1	1
2015	0	0	0	0
2016	1	0	0	1
2017	0	0	0	0
2018	0	70	5	75

表2 風しんウイルス検出症例の性別・年代(2018年)

	男性	女性	計
20歳代	9	6	15
30歳代	17	8	25
40歳代	20	0	20
50歳代	9	2	11
60歳代	2	1	3
70歳代	0	1	1
計	57	18	75

風しんはワクチンで予防できる疾患です。県民の皆様は、風しんワクチンの予防接種歴や、過去に風しんに罹ったことがあるかどうかを確認しましょう。医療機関の先生方におかれましては、風しんを診断した際には、引き続き、検体採取のご協力をお願いいたします。